新城市民病院地域研修レポート

名古屋第一赤十字病院

新城市民病院を訪れるのは、学生時代の自治医大夏季研修を含めて2回目であった。当時は見学といった意味合いが強かったのに対して、今回の地域研修では初診外来や救急車対応をさせていただき、それを毎日の振り返りでご指導していただくことで、医学的に大変勉強になった研修であった。中村日赤の内科外来やERでは、主に入院か帰宅の判断をするのが仕事である。しかし、新城市民病院では、自分がファーストタッチした患者が入院した場合には、入院中だけではなく、ご家族への病状の説明、退院の調整・決定、外来でのフォローアップといったことまでやらせていただいた。実際にやってみると、わからないことが予想以上にたくさんあることに気付かされた。もちろん事務的な手順がわからないことも多かったが、とくに慢性疾患の管理においてわからないことが多かった。例えば、初診の糖尿病の検査と管理、骨粗しょう症の検査と管理といったものである。いままで急性期の対応がほとんどであったため、10年後20年後を見据えた治療はというのは初めての経験であった。また入院しなかった場合でも、その患者の次回の外来を予約し、その外来で自分が診察することにより、患者さんがどのように治っていくのかについて身をもって感じることができた。そういった中で、軽度の肝機能障害・腎機能障害のある患者さんをフォローアップの予定を立てずに帰してしまったことがあった。軽度の肝機能障害や腎機能障害は、早めの診断と治療介入により進行を食い止めたり、遅くしたりすることができる可能性があるのにもかかわらず、現時点での病態に関係がないという理由で対応を怠ってしまった。その点について指導を受け、そこで「救急外来」ではなく「総合診療科外来」である意味について気付かされた。当たり前であるが総合診療科外来は単に入院か帰宅かを決める場所ではなく、その人の将来を見据えた治療をするべき場所である。

また毎日朝のカンファレンス、Up to Date勉強会、EBM勉強会にも参加し、そのたびに新しい知識を得ることができた。勉強会に関しても頻度の高い疾患に関するものが多く、日々の診療に役立つことが多かった。またそういった勉強会が多く、指導医の先生に質問する機会が多かったことで、この研修がより実りの多いものになった。なかなか一人で論文や雑誌を読み続けるのは容易ではないため、こういった勉強会が毎日あることは素晴らしいことであると感じた。

謝辞

本研修に際して、終始熱心なご指導を頂いた総合診療科の先生方に加え、病棟および外来の看護師の方々、理学療法士の方々、MSWの方々、事務の方々に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。